

伊豆シャボテンリゾート 株式会社

2026年3月期
中間期決算説明資料



各事業の説明

【レジャー事業】

- 2024年まで回復基調にあった伊東市の観光産業も、2025年夏期の数値が前年比でマイナスとなっており、回復の勢いに“揺らぎ”が見える点が注目されます。弊社の事業においても、通年・エリア・宿泊型ニーズの細分戦略が一層重要になっています。

【アニタッチ事業】

- アニタッチ事業の開始から計画的に出店拡大を続けてきましたが、今年度は新規出店が実現できておりません。出店対象地域を九州地方にも拡大し、引き続き新規出店の実現に向け尽力しています。

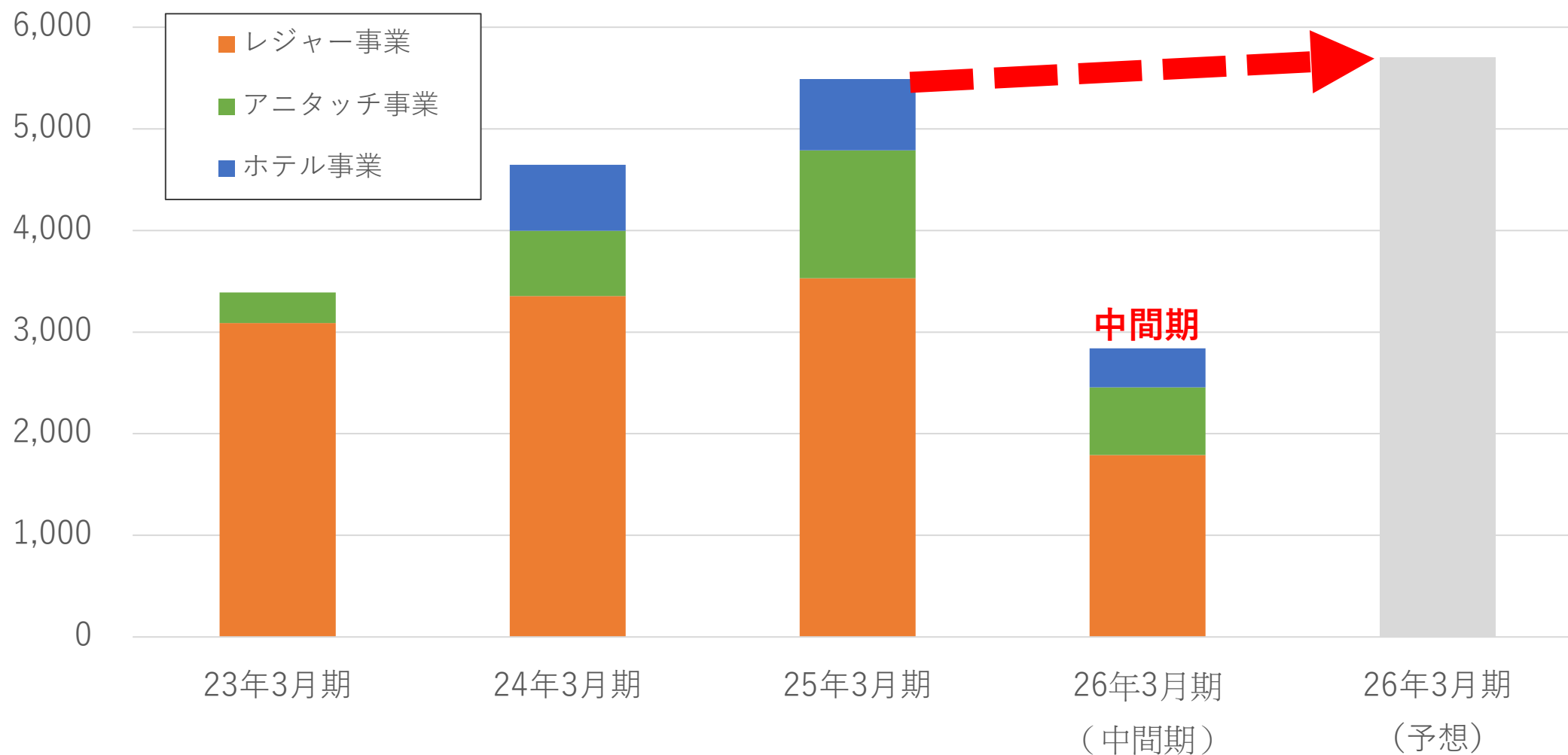
【ホテル事業】

- 伊東市の調査では「宿泊する」と回答した割合が77.3%と前年に比べて5.7%減少という報告がある中、同事業における宿泊客数は増加しており、更なる成長を実現すべく、投資の準備を進めています。

【売上高推移】

(2023年3月期～2026年3月期（中間期）） * 26年3月期予想含む

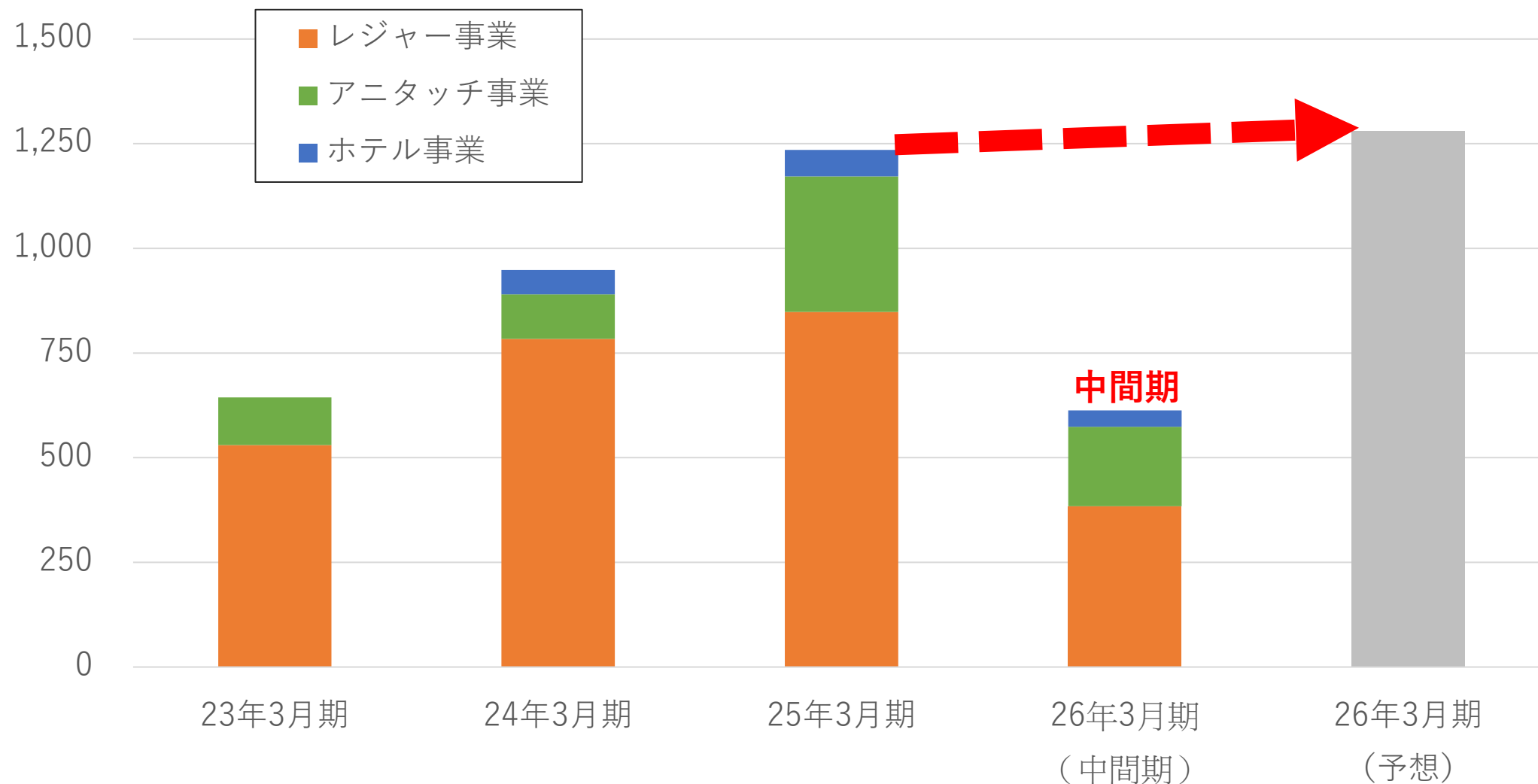
単位：百万円



【セグメント利益推移】

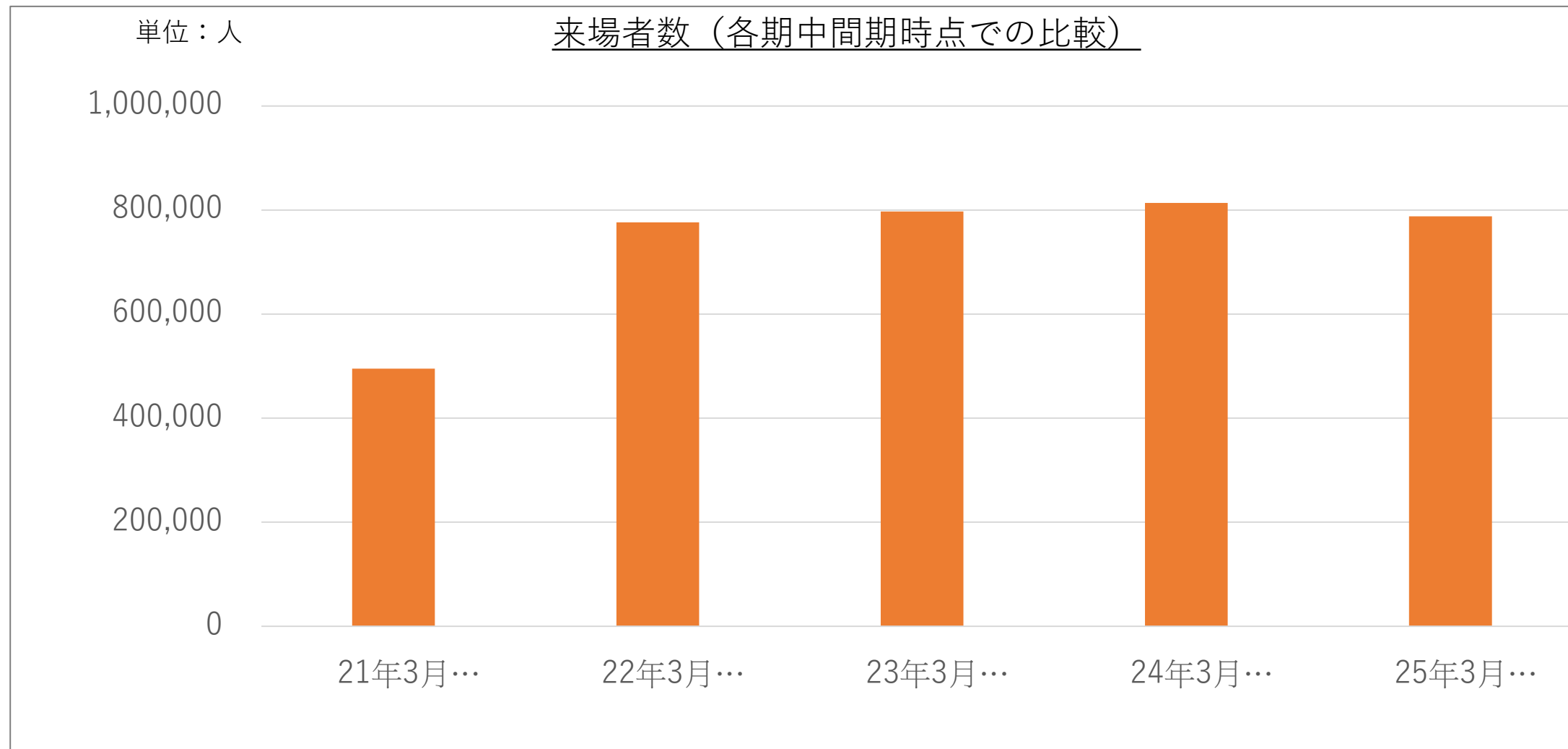
(2023年3月期～2026年3月期（中間期））＊26年3月期予想含む

単位：百万円



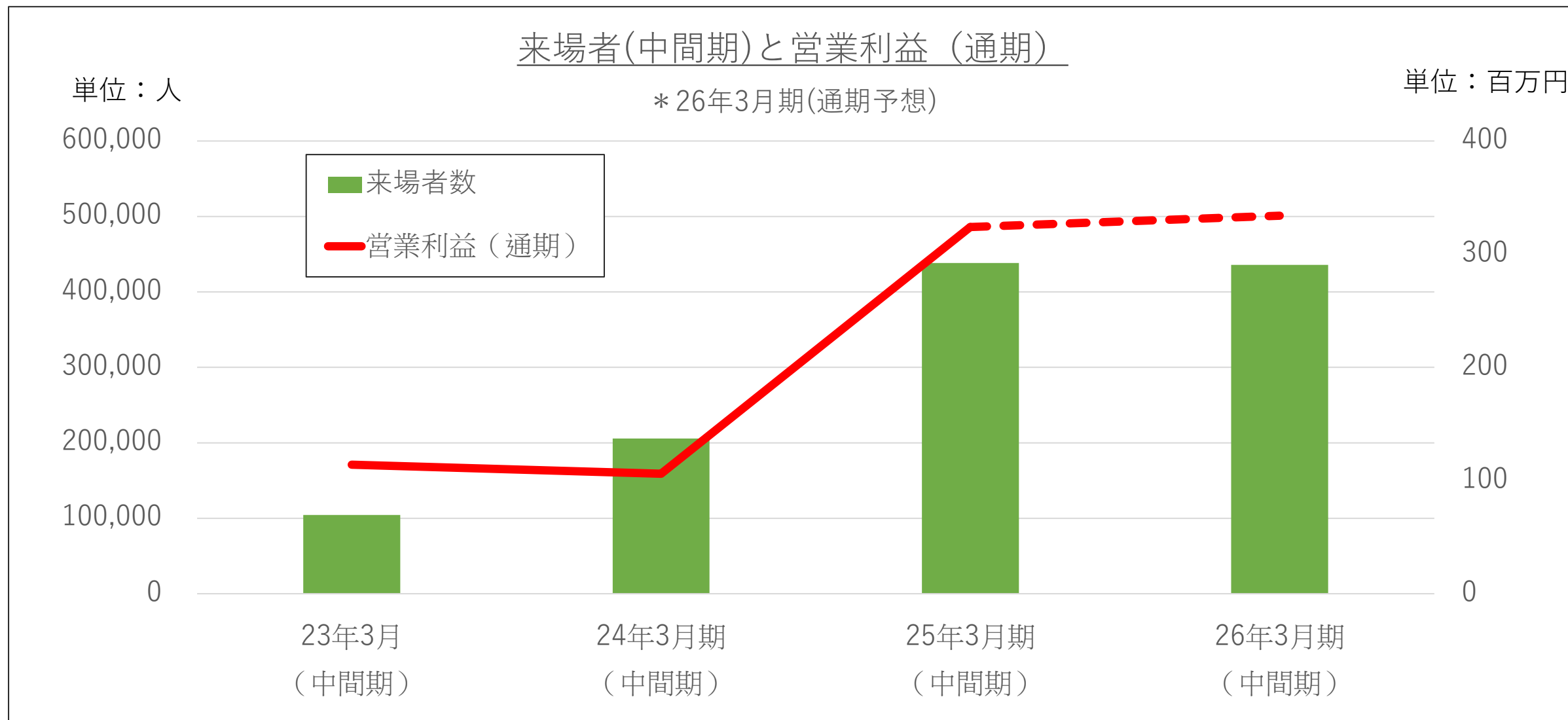
【レジャー事業】

25年夏期の伊東市の宿泊7%減、観光施設4%減（伊豆新聞デジタル）との報道や記録的猛暑の影響がある中、当社施設への来場者数は3.2%の減少に留まり、売上は2.7%増を達成。好調な伊豆シャボテン動物公園ではサファリエリアのエリア拡大を予定。



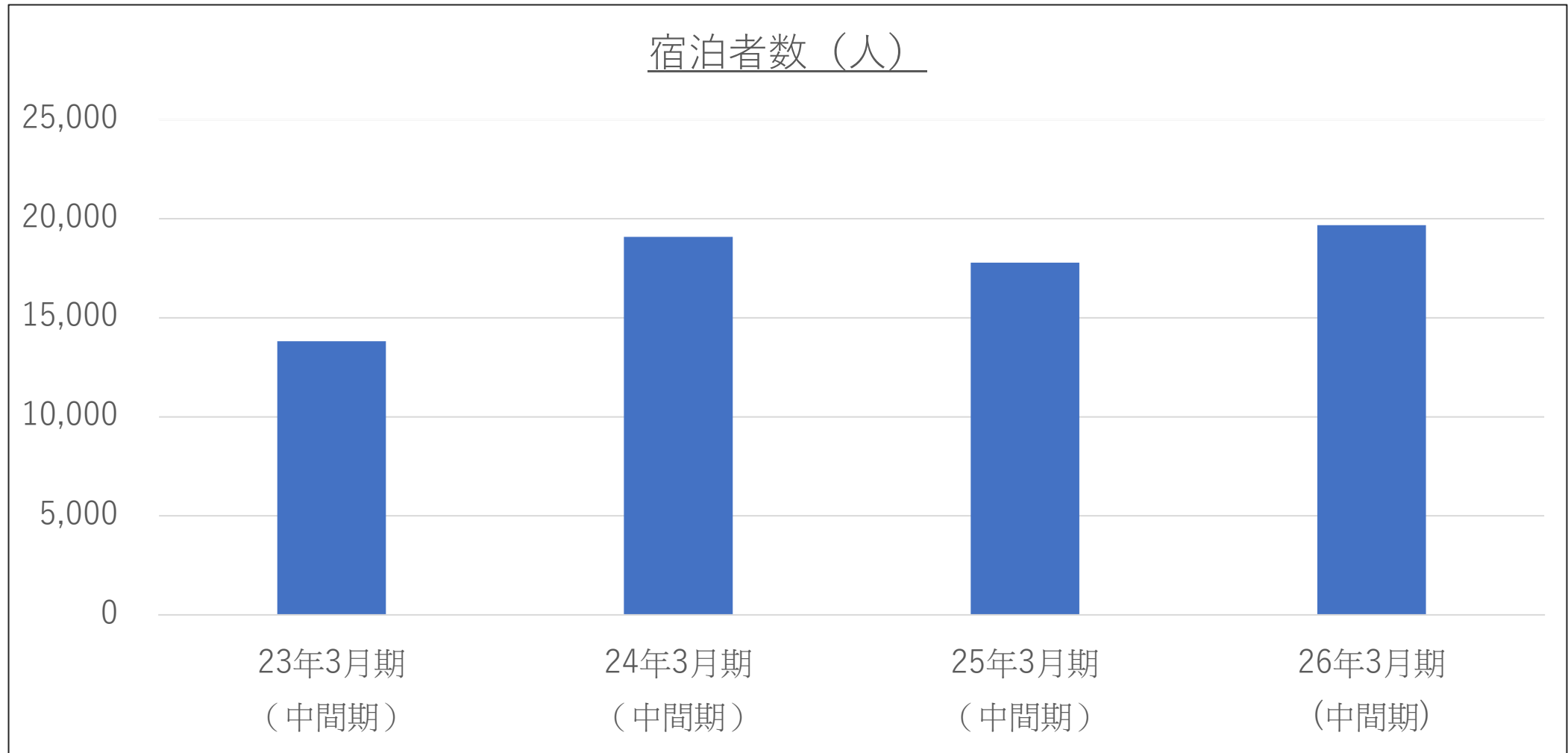
【アニタッチ事業】

店舗の増加がないため、中間期における来場者数は前年をやや下回るものの、客単価が伸びているため営業利益（通期）は昨年度を上回る見込み



【ホテル事業】

インバウンドでの宿泊客数が伸び、宿泊客数が過去最高を記録。更なる需要に応えるべく、**25年中にスカイヒルホテルの客室を5部屋増設予定**。



免責事項

- 本資料に掲載されている情報には、業績予想・事業計画等の将来の見通しに関するものが含まれています。
- これらの情報については、現時点で当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、リスクや不確実性を含んでおります。当社としてのその実現や将来の業績を保証するものではなく、実際の業績はこれらの将来の見通しと異なる可能性があることにご留意ください。
- 本資料は当社の情報提供を目的とするものであり、当社株式の購入や売却等の勧誘を目的としたものではありません。当社の有価証券への投資判断は、ご自身の判断で行うよう、お願いいたします。